

市民会館跡地エリア整備事業設計・施工業務公募型プロポーザル

審査講評

令和2年1月18日に実施した第5回市民会館跡地エリア整備事業者候補者選定委員会公開プレゼンテーションにおける発表順に、提案の講評を行う。

1. 個別講評

■参加者番号46

「茨木のミライを紡ぐ広場」の基本方針のもと、提案企業における豊富な実績と各分野の専門家の集結、協働による充実した実施体制、綿密な工程計画が示されるなど、具体的かつ確かな実施方針が提案されている。特に、周辺を含むこの地の風土と歴史を巧みに読み取った提案コンセプトは高く評価された。

個別には、立地条件に応じた建物ゾーニングと南北に配置した広場、敷地レベル差をいかしたアプローチデッキにより建物と周辺をダイナミックにつなげる施設構成が、各方面からの多様なアクセスを可能にする独創的な提案として評価される一方、1階エントランスや、つづら折りの階段、中央通りから建物へのデッキによる動線が、利用者の利便性としてどこまで有効であるかとの指摘もあった。また、外観デザインについて、設計者の意図や工夫が感じられる斬新なファサード構成で、茨木の新たなシンボルになり得るとして評価される一方、これについても公共施設として数十年後を見据えた価値を含めどのように捉えるかなど、評価が分かれた。

ホール等施設は、フライタワーを建物中央に配置することで、周囲への圧迫感を軽減するとともに、多様な使い方のできる舞台や客席空間、1階に配置した多目的ホールなどの工夫が評価されたが、一方で、搬入口等のサービス動線や楽屋等の配置における課題を指摘する意見もあった。

子育て支援施設は南側の2層に配置され、機能的で利便性の高い計画となっている。また、図書館は「すべてのフロアが図書館とつながる」をコンセプトに、多層階にわたり展開するテーマ設定、配架計画の提案が評価されたが、やや分散しすぎており、運用や利用面における課題も懸念された。その他、市民活動センターなど各種機能も適所に配置されているが、必要諸室について要求面積との相違が他の提案と比較して多く、詳細部分について不十分な点も見受けられた。

機能面では、合理的な構造・設備計画に基づき、中間免震によるI類相当の耐震性確保や浸水対策、デッキへと通じる避難動線など、災害に強い施設が具体的に示されるとともに、各種ユニバーサルデザインへの対応、環境及び経済性に配慮した施設づくりの提案がみられた。

また、全体事業工程の2か月前倒しを実現する詳細な施工計画のほか、開館後までを見据えたワークショップ、市内企業との協働など、具体的な地域貢献、実施方策も示されており、評価の対象となった。

全体として、優れたコンセプトに基づく独自性の強い魅力ある提案である一方、提案の詳細において、他者と比べてやや記載内容や検討に不足がみられた。

■参加者番号95

市民の新たな「心の中心地」の整備実現を方針に掲げ、実績豊富な設計・施工企業により竣工後も見据えた充実した業務体制と取組方針が提案されている。

にぎわい軸と文化軸の交点という立地特性を踏まえ、「交流の森」をつくるという提案コンセプトのもと、敷地の四方を正面として意識した提案や、建物全体の高さを31m以下に抑えた計画は、周囲への圧迫感軽減という側面で一定評価でき、全体としてコンパクトにまとめられている一方で、建築面積が大きくなることにより建物周囲にあまり余裕がない点が指摘された。

ホール等施設は、フライタワーを中央に配置することで景観的な配慮を図っているものの、低くまとめたフライタワーは、将来的なメンテナンスや機器変更などへの対応において柔軟性に欠ける可能性が懸念された。また、多目的ホールを大ホールと同一の2階に配置したことが、1階に配置した他の提案と比べて、イベント時などの多様な使い方という面でメリットの少ない提案と評価された。

子育て支援施設においては、ワンフロア型の集約配置による縦方向の移動負担軽減や、ブックウォールで各階をつなげる図書館の特徴的な提案など、平面計画上の工夫が一定評価される一方で、各階の機能や配置ゾーニングにおいてゆとりがあまり感じられず、遠回りの動線になっているとの意見も出された。

北側に独立して配置された大屋根の提案は、にぎわい軸としての中央通りやその北側の敷地C・Dを視野に入れた、周辺まちづくりへの貢献を意図したユニークな独自提案として評価を得たほか、市民で考え、使いこなすハーフメイドな広場という提案は、これまでの市の取り組みやワークショップの意見を踏まえ丁寧に検討されたものであった。

施設の基本性能としては、耐震構造（Ⅱ類）と各種災害対策機能の提案、ユニバーサルデザインにおけるノウハウの発揮の他、CASBEE-Sランク及びZEB-Orientedの取得など環境配慮型の施設提案が評価された。

具体的な取り組みが一定示された施工計画や、段階を踏まえ内容を展開していくワークショップ、最も多く予定された市内企業への発注額などの点は、市の大規模な公共プロジェクトとして地域貢献を重視した提案内容となっている点が高く評価された。

全体的に細かな点まで記載されるなど、中身の濃い提案となっているものの、無駄のないコンパクトな設計方針が、ゆとりやのびやかさを打ち消してしまっている点が懸念された。

■参加者番号23

基本構想、基本計画を市民がまいた種と位置づけ、それらを設計において市民とともに育て形づくり、シンボルとして完成したあとも、将来の運用にわたって時間をかけて成長させていくという基本方針のもと、合意形成を重視した業務の実施方針や詳細な工程計画の分かりやすい提案が高く評価された。

7つのコンセプトに基づき提案が構成されており、公共空間を市民参加によって時間とともに成長し形成していく考え方を随所に散りばめ、ゆとりのある配置と適切な広場等のゾーニングとなっている。フライタワーの南側配置については、バックヤード機能の充実や各施設機能の効果的な配置を実現する反面、東西通り側に無機質な壁面が現れることによる景観的な圧迫感や、まちづくりの観点からの懸念が最後まで議論されたが、最終的には全体的な建築とランドスケープの融合をめざした開放的な施設づくりの提案であると評価された。

ホール等施設は、大ホール楽屋等の舞台フロアへの集約配置とリハーサル室や多目的室群との近接配置により、多様な使い方が提案されるとともに、多目的ホールの1階配置と広場側開放による利活用の柔軟さが評価された。

各階ゾーニングについては、1階、2階の子育て支援施設が、その目的や性格に応じて適切に配置されており、5階と6階をメインフロアとして構成された図書館エリア、7階の市民活動センターとプラネタリウム、会議室系の多目的室ゾーンが配置された各階を、「縦の道」と呼ぶ吹抜空間とエスカレーターの動線によりつなぐことで、利便性の向上と機能の複合に

よる相乗効果を生み出す工夫が提案されている。また、各階に配置された屋外テラスと植栽により、外とのつながりを重視した施設構成が高く評価された。

基礎免震による I 類相当の耐震グレード確保の他、浸水対策や災害時を想定した各種機能やスペースの活用提案などが具体的に示されており高い評価を得たほか、だれもがスムーズかつ多様な使い方を可能とするユニバーサルデザインの考え方、CASBEE-S ランク並びに ZEB-Oriented の取得をめざす環境配慮の方策、経済的な施設づくりの提案も高く評価された。

竣工引き渡しの前倒しや周辺交通に配慮した安全かつ効率的な施工計画、品質管理の各種提案が評価されるとともに、市内企業の活用や地域とともに成長する仕組みづくりによる地域貢献への提案なども一定評価された。

全体として基本計画、要求水準書等をよく読み込んだ分かりやすく明解でシンプルな提案であり、開放感や余裕のある空間づくりが「日々何かが起こり、誰かと出会う」コンセプトの具現化を期待させるものである。

2. 総評

46番は、優れたコンセプト設定に基づき、レベル差を活用したアプローチデッキと斬新な建物デザインが大きな特徴の提案であったが、茨木市のシンボルとして長きにわたってどのような価値となりうるのかは議論となった。個別施設の計画や空間形成においても工夫がなされる一方で、多層階に展開された各種機能が分散しすぎているとの意見の他、他者と比べて要求面積と相違する諸室等が散見される点が指摘され、詳細部分への具体的な落とし込み等の観点で、他の提案よりもマイナスの評価となった。

95番は、1階のワンフロアに子育て支援施設を集約し、高さを31m以内に抑えるなど大規模な複合機能をコンパクトに配置した提案が特徴的であったが、建築面積が大きくなり周囲に余裕がない点や、各フロアに機能やスペースを詰め過ぎた結果、広さや動線において使いにくいのではとの意見、評価が多くみられた。また、唯一北側に置いた大屋根の独立配置は独創性があるものの、建物とのつながりに関して難点があるとの意見や、施設全体に対するコンセプトの展開が読み取りにくいといった意見もみられた。

23番は、「日々何かが起こり、誰かと出会う」という提案コンセプトのもと、余白を確保しつつ開放的な構成は、施設の完成以降も成長しつづけ、新たな活動が生み出される期待感があり、基本構想におけるキーコンセプト「育てる広場」の実現に最もマッチした提案であった。コンパクトかつ多層階に展開された階層構成でありながら、縦の道でつながれた各フロアの伸び伸びとしたゾーニングやゆとりを感じさせる特徴的な空間、各階のテラスに配した緑により建物を包み込み、周辺とつなげていく考え方など、やさしさ、やわらかさが提案全体にわたって感じられるなど、総合的に最も高評価の提案となった。

以上の審査により、最も高い得点を得た23番を受託候補者、46番を次点者として選定するものであるが、23番の提案においてもすべてが十分であったわけではない。今後、事業契約を結ぶにあたっては、市民の意見を聞き、市とも丁寧に協議するよう事業者に求めるとともに、審査の過程で出された以下の検討事項について、設計時に十分取り込まれるよう付帯意見として求めたい。

- ・南側に配置されたフライタワーの景観面、まちづくりの側面からの再検討（多様で発展的な活用策、市民参加による検討など）及び西側の水路改修を含めた足下の景観や、アイレベルを意識した歩行者空間としての質の向上

- ・子育て支援機能を有する複合施設ということ十分に踏まえた、縦の道の吹抜空間における安全性についての配慮とともに、ホールにおける車椅子席の配置など、ユニバーサルデザインに関するより専門的かつ効果的な取り組み
- ・1階に配置したコンシェルジュの効果的な運用や、魅力的な図書館、一層の活動が生まれる市民活動センターなど、運用面を視野に入れた検討
- ・ガラス面が多く、ゆとりある内部空間における適切な空調方式の検討や、エスカレーター消費電力対策等、維持管理費等ライフサイクルコストの低減に向けた積極的な取り組み

最後に、3者の提案内容はいずれも民間の英知を結集した高い水準であったことを特筆したい。また、提案にあたっては十分な議論を重ね、多大な労力と時間を費やすなど、各者の並々ならぬ努力と熱意に対し、委員会一同、深く敬意を表するものである。

選定された提案に基づき今後設計へと進んでいくが、提案を最終形とはせず、市、市民、受託候補者が協力し、魅力ある「育てる広場」を作り上げていくことを期待する。

令和2年1月28日

茨木市市民会館跡地エリア整備事業者候補者選定委員会

委員長 久 隆浩
副委員長 建山 和由
委員 本杉 省三
委員 井元 真澄
委員 落合 佳人
委員 河井 豊
委員 秋元 隆二